

けつぽんきょう
正泉寺の血盆経

正泉寺は、鎌倉時代の弘長3（1263）年、執権北条時頼の娘桐姫（法性尼）の開基と伝えられる。法性尼永眠から153年後、「血の池地獄の苦しみを受けている。血盆経を授けて救ってほしい。」と和尚にお告げがあった。

夢枕に現れた地藏尊の化身に「手賀沼で竜宮に蔵する血盆経を与える。」と聞いた和尚が、翌朝手賀沼に行き、白蓮華の中にあった血盆経を持ち帰り、手あつく供養したところ成仏したという。

参考資料：正泉寺の血盆経について <関連資料>			
番号	資料のタイトル	分類番号	該当ページ
1	大龍山 正泉寺	A185	「血盆経縁起絵」など カラーで掲載
2	ふさの国の文化財総覧 第3巻	C709.1	P28
3	我孫子市史 民俗・文化財篇	A210.1	P586～593
4	あびこ歴史散歩	A291	P44
5	我孫子の史跡を訪ねる	A291	P72～73
6	ふるさとあびこ <改訂版>	A210.1	P281～297
7	正泉寺の血盆経信仰資料	A210.1	P12～23